

音楽アーティスト科 ギターコース 受講科目一覧 1年次

ギター総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅰ	68	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
合計		888	26	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ		年次	1年次
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。					
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドメイキングⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。				
授業概要					
楽器機材への知識を深め、聴音力を身に付ける為の授業を行う。					
到達目標					
・ミュージシャンとして“自分を表現し易い音色”を作り上げる。 ・多様なジャンルに対応する為の知識・聴音力を身に付ける。 ・現場でのトラブルへの対処法を身に付ける。 ・“音作りの上手さはスピードの早さ”迅速で正確なセッティングを身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	校内の機材を利用し、まずはトラブルの起こらない使用法を学ぶ。
【前期】 4～7回目	自身の使用する楽器への理解を深め、即戦力となるセッティングを学ぶ。
【前期】 8～10回目	現代音楽において必須となる主要なエフェクト群に触れ、その必要性を理解する。
【前期】 11～13回目	楽曲内のシチュエーションによって使い分ける音色・その理由を明確化する。
【前期】 14～17回目	【テスト内容】定められた時間内での全ての機材のセッティングを実演・トラブル対処への内容理解度をチェックする。
【後期】 18～20回目	ギターシェイプによる音色の違いに着目し、聴き分ける技能を習得する。
【後期】 21～24回目	レコーディング等で理想の音色を得る為、楽曲毎に使用するギターシェイプをセレクトする感覚を養う。
【後期】 25～27回目	レコーディング等で理想の音色を得る為、楽曲毎に使用するアンプをセレクトする感覚を養う。
【後期】 28～30回目	自身の理想の弾き心地を追求しつつ、トラブルの原因となる事の多いケーブル・電源周りへの知識を深める。
【後期】 31～34回目	【テスト内容】聴音による楽器の聴き分けと知識の理解度を確かめる。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽器関連知識/聴音力」の項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	サウンドメイクはTPOに合わせたお化粧の様な物です。 演じる楽曲の魅力を最大限に再現し、リスナーへ届ける事の出来るミュージシャンを目指していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニングⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。					
授業概要						
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。						
到達目標						
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。				
授業概要					
8ビートや16ビート、ロックやシャッフル等、様々なビートに対応できるようリズムの基礎から学んでいきます。アクセントやクレッシェンド、ダイナミクス記号など、楽曲のアーティキュレーションについても触れていきます。					
到達目標					
・音楽において重要な要素である『リズム』の基礎を習得する。					
・小節や拍の概念を理解する。					
・楽譜上の記号表記を理解し、沿った演奏ができる。					
・楽譜上のリズムを理解し、表記に沿った演奏ができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Unit1～4】8ビート、カウント、繰り返し記号、リハーサルマーク、ダイナミクス記号、ショート・エンディング、シンコペーション、ロング・エンディング
【前期】 4～7回目	【Unit5～8】ピックアップノート、キュー、勢いづけの16分音符、マイナーブルース、マスターリズム譜
【前期】 8～10回目	【Unit9～12】セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、ダ・カーポ、ハーフタイムフィール
【前期】 11～13回目	【Unit13～14】スウィング、シャッフル、ロック・シャッフル
【前期】 14～17回目	【Unit15】スウィング・ビート、ウォーキングベース ■前期試験：課題曲の演奏により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Unit16～19】ジャズシャッフル、12/8拍子、ダイナミクス、16ビート
【後期】 21～24回目	【Unit20～23】スロー16ビート、R&B、サンバ、ファンク
【後期】 25～27回目	【Unit24～26】Funky R&B、シャッフル16ビート、レゲエ、後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Unit27～29】スカ、ボサノヴァ、セカンドライン、後期テスト
【後期】 31～34回目	【Unit30】年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	リズムは音楽においてとても重要な要素です。当授業ではリズムの基礎から学んでいきます。リズム感の向上はもちろん、拍や拍子を理解することで他パートとのコミュニケーションがとりやすくなり、アレンジ等をスムーズに進めることにも役立ちます。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムギターバックギンク/カッティングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。				
授業概要					
基本的なコードの形から複雑なテンションコード、様々なスタイルのストローク、理論も交えながらコードの基本を学ぶ。					
到達目標					
・リズム良くコード進行が弾けるようになる。 ・コード理論を理解する。 ・楽曲においてコード演奏が出来るようになる。 ・楽曲のアレンジ等にコードを利用する。 ・コードの成り立ちを理解することにより、キーの理解、作曲等に応用する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	オープンコードの理解
【前期】 4～7回目	パワーコード、バレーコードの実奏
【前期】 8～10回目	コード理論、様々なコード進行の理解
【前期】 11～13回目	ブルース進行の運用
【前期】 14～17回目	・トライアドの理解 ・四和音の理解 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	フレットの理解
【後期】 21～24回目	テンションコードの学習1
【後期】 25～27回目	テンションコードの学習2
【後期】 28～30回目	4弦ベースコードの学習1
【後期】 31～34回目	4弦ベースコードの学習2 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードフォーム/コード進行の演奏」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コードをしっかりと弾けることはとても大切なことです。ギタリストはソロに注目しがちですが、演奏のほとんどはコードを弾くことです。理論や複雑なコードを学んでいくにつれ、多彩なバックギンクが弾けるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シングルスtrings & スケール I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・奥本亮、清水麻八子等、アーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・流星群少女、茜つばき、初めてガールズ！、トキヲイキル等、アーティストのレコーディング時のバックアップミュージシャン その他、ギターに関する教則本やDVDを数多く手掛ける。				
授業概要					
スケールを理論面、そして演奏技術面から学び、様々な音楽スタイルでのリード演奏、メロディー作り、インプロヴィゼーションの方法論を学ぶ。					
到達目標					
・スケールを理論的に把握し、コードおよびコード進行との関係を理解する					
・リードプレイに関わる演奏技術を習得し、あらゆる音楽スタイルでの演奏を可能にする。					
・ダイアトニックを中心に構成された音楽上でスケールや演奏法を自身で選択し、ミュージカルに演奏できる。					
・ある演奏内容に対して、最善の演奏法を自身で分析出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	メジャーペンタ&メジャースケール [#1、#3] マイナーペンタ&ナチュラルマイナースケール[#2 & #4] の修得
【前期】 4～7回目	スケールの学習方法とトレーニングアイデア、メジャー & マイナー・トライアドの基礎ポジション修得
【前期】 8～10回目	スケールとアルペジオを融合させる考え方と奏法の学習、コード進行を考慮したインプロヴィゼーション
【前期】 11～13回目	メジャー系 #2、#4、#5とマイナー系 #1、#3、#5の5ポジションを修得
【前期】 14～17回目	ブルースーナリティの基礎学習、前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルースケールとその発展系スケールの学習、ドリアンスケールに関する学習
【後期】 21～24回目	ミクソリディアンスケールに関する学習、 ドリアン・ミクソリディアン・ペンタトニック系を融合させた演奏法の学習
【後期】 25～27回目	フリジアンスケールに関する学習、 ロクリアンスケールに関する学習
【後期】 28～30回目	各スケール理解度のチェック、使用法の熟成、スケールにまつわるオプショナルな知識
【後期】 31～34回目	総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私たちが夢中になっている音楽、その中でもとりわけメロディーなどを生み出すもとなっているスケール理論を学ぶということは非常に重要かつ有意義です。「なぜこのメロディーに感動するのか?」「なぜこれを聞くと悲しい気持ちになるのか?」「このメロディーはどのようにして生まれたのか?」これらの疑問を解決し理解する手掛かりになるでしょう。またギターテクニックの飛躍的な向上はもちろん、効率的で生産的な練習法も学べます。
備考	使用教科書「Single Strings 1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プレイング実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。						
授業概要							
楽譜の基本や記号、調号など、リーディングの基礎から学んでいきます。五線譜を読んで演奏できる技術を習得します。							
到達目標							
・楽譜の基本を理解する。							
・読譜の上で必要な知識を習得する。							
・五線譜を読譜し演奏できる。							
・五線譜を読譜、記譜できる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Chapter1～6】楽譜の基本、5thポジション①、8ビート、まとめ、リズムギター譜、5thポジション③、タイ・スラー
【前期】 4～7回目	【Chapter7～10】シンコペーション、アンティシペーション、5thポジション④⑤、加線、臨時記号、調号、付点
【前期】 8～10回目	【Chapter11～17】三連符、まとめ、ソングフォーム、シャッフル、アーティキュレーション
【前期】 11～13回目	テストレビュー/前期テスト/【Chapter18】まとめ
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験：課題曲の演奏や楽譜の読み書きにより「読譜 / 記譜 / 演奏力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Chapter19～22】記号、読みやすい譜面、読譜、16分音符、16分音符②
【後期】 21～24回目	【Chapter23～28】16分のシンコペーション、合奏～8分の6拍子、コードリーディング～まとめ、テーマリーディング、フェイク
【後期】 25～27回目	【Chapter29～31】7thポジション、コードリーディング②、テーマリーディング②/後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Chapter32～35】パツパ/テストレビュー/後期テストコードリーディング③
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏や楽譜の読み書きにより「読譜 / 記譜 / 演奏力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	素晴らしいミュージシャンでも、五線譜を苦手とする人は意外と多く、特にギタリストはTAB譜の方が馴染みがあるためより顕著かと思います。しかし、リーディングできると演奏や活躍の場はどんどん広がっていきます。当授業では、楽譜基礎の基礎からギターと紐付けて学んでいき、記譜・読譜・初見演奏が出来る様に練習していきます。
備考	使用教科書「Guitar1MR」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ギターベーシック/ギター実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。				
授業概要					
ギター演奏に必要な音楽の構造理解を促し、演奏の基本となる技術習得をはかる。					
到達目標					
指板上の音程 /チューニング/音符・休符の種類 /記号の名称/インターバル(Interval)/ローコード/コード・フォームの仕組み/コードフォームと度数関係 コードの構成音/構成音を単音で弾いてみよう/ディミニッシュ・セブントとオーギュメント/調性について/各 Key の調号/平行調と同主調/スリー・コードを覚えよう コード機能 /ダイアトニック・コードと機能一覧 /ケーデンス /ドミナント・モーション /代理コード /クリシェとペダル・ポイント/スケール理解/ メジャー・スケール/ナチュラル・マイナー・スケール/ハーモニック・マイナー・スケール /メロディック・マイナー・スケール /ペンタトニック・スケール 運指練習/フレーズ練習/リズム・トレーニングなどAtoZで初歩から応用まで「ギター」理解。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ギターという楽器の特性理解。コード譜を見て曲を追うトレーニング。指板中の音を覚える フィジカルの基礎練習
【前期】 4～7回目	譜面の見方、音符や休符理解促進。バックিং/カッティングスタイルを把握し、リズムについての基礎・また練習のやり方を学ぼう
【前期】 8～10回目	コード理論の把握し、それらを応用してコードフォームや進行を覚える。
【前期】 11～13回目	コード譜を見て実際にコードを弾いてみよう・また右手のストロークの基本を学ぼう1 コード譜を見て実際にコードを弾いてみよう・また右手のストロークの基本を学ぼう2
【前期】 14～17回目	ブルースのコード進行でセッション出来るようにしよう・ペンタトニックについて1 ブルースのコード進行でセッション出来るようにしよう・ペンタトニックについて2 ■前期試験:基礎理論の把握/技術習得
【後期】 18～20回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスイングについて1
【後期】 21～24回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスイングについて2
【後期】 25～27回目	スケール理解及びトライアド・四和音のコードのボイスイングについて3
【後期】 28～30回目	ハーフタイムシャッフル・スウィングといったリズムについて1
【後期】 31～34回目	ハーフタイムシャッフル・スウィングといったリズムについて2 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ギターという楽器の特徴を理解、またベーシックな知識や技能は演奏する上での土台になります。知識理解と技能習得を着実に進めていきましょう。
備考	参考図書「Guitar Basic1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。						
授業概要							
「リズムの歴史と体系」で学んだ様々なリズムパターンを実際にアンサンブル形式で練習していきます。よりリズムに特化し、セクションごとの確認やメトロノームの使用で細かくチェックしていきます。							
到達目標							
・音楽において重要な要素である『リズム』の基礎を習得する。							
・ベースやドラムの音をよく聞けるようになる。							
・リズム感の向上。							
・ベースやドラムの音を聞き合わせることができる。							
・バンド全体で一つのグルーヴで演奏できる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Unit1～4】8ビート、カウント、繰り返し記号、リハーサルマーク、ダイナミクス記号、ショート・エンディング、シンコペーション、ロング・エンディング
【前期】 4～7回目	【Unit5～8】ピックアップノート、キュー、勢いづけの16分音符、マイナーブルース、マスターリズム譜、
【前期】 8～10回目	【Unit9～12】セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、ダ・カーポ、ハーフタイムフィール
【前期】 11～13回目	【Unit13～14】スウィング、シャッフル、ロック・シャッフル
【前期】 14～17回目	【Unit15】スウィング・ビート、ウォーキングベース ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Unit16～19】ジャズシャッフル、12/8拍子、ダイナミクス、16ビート
【後期】 21～24回目	【Unit20～23】スロー16ビート、R&B、サンバ、ファンク
【後期】 25～27回目	【Unit24～26】Funky R&B、シャッフル16ビート、レゲエ、後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Unit27～29】スカ、ボサノヴァ、セカンドライン、後期テスト
【後期】 31～34回目	【Unit30】年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	同じビートであっても、打ち込みやメトロノームの場合とバンドで演奏する場合では全くノリが変わってくるものです。当授業では、学んだリズムを実際にアンサンブル演奏していきます。他パートと合わせて初めて完成するグルーヴを感じて習得していきましょう。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。				
授業概要					
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。					
到達目標					
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。 ・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。 ・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。 ・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。 ・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 4～7回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかり意識したリズムワークを身に着ける
【前期】 8～10回目	ステージでライブをしていることをしっかり認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 11～13回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 14～17回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験：課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 21～24回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 25～27回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き活きとした演奏を目指す。
【後期】 28～30回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 31～34回目	年間総合復習 ■後期試験：課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。				
授業概要					
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施					
到達目標					
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。 ・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。 ・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。 ・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。 ・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 4～7回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかり意識したリズムワークを身に着ける
【前期】 8～10回目	ステージでライブをしていることをしっかり認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 11～13回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 14～17回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 21～24回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 25～27回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き活きた演奏を目指す。
【後期】 28～30回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 31～34回目	年間総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタイルⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自身のバンドにてギター、ボーカル、作編曲等担当し福岡最大級のSunset Liveを始め、様々なフェスに出場経験がある。 約2400組参加のオーディションにて入賞経験もあり。 現在は自身のバンド含め、様々なアーティストに編曲やギターアレンジ等で参加している。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。					
到達目標					
様々なジャンルのギタープレイ、特にリズムの特徴などにフォーカスし学習する。代表的なアーティスト、楽曲を知り、題材のバックギングパターンやリフ、フレーズを実際に演奏し自身のスキルアップに繋げる。 ・代表的なアーティスト、楽曲を知ることにより各音楽ジャンルの特徴を理解する。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等)【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 4～7回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chili Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 8～10回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 11～13回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 21～24回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 25～27回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	当授業は、様々なジャンルの音楽に触れ実際に演奏することで、自身の演奏・音楽的知識、可能性の幅をどんどん広げていきます。スキルアップはもちろん、今まで知らなかったジャンルを身につけることで自身の活動での演奏、作曲、アレンジにも役立つでしょう。
備考	

音楽アーティスト科 ギターコース 受講科目一覧 1年次

ギター&クリエイター専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎Ⅰ	68	2	2
実習	DAW・DTM応用Ⅰ	68	2	2
合計		888	26	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。							
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドメイキングⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。				
授業概要					
楽器機材への知識を深め、聴音力を身に付ける為の授業を行う。					
到達目標					
・ミュージシャンとして“自分を表現し易い音色”を作り上げる。 ・多様なジャンルに対応する為の知識・聴音力を身に付ける。 ・現場でのトラブルへの対処法を身に付ける。 ・“音作りの上手さはスピードの早さ”迅速で正確なセッティングを身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	校内の機材を利用し、まずはトラブルの起こらない使用法を学ぶ。
【前期】 4～7回目	自身の使用する楽器への理解を深め、即戦力となるセッティングを学ぶ。
【前期】 8～10回目	現代音楽において必須となる主要なエフェクト群に触れ、その必要性を理解する。
【前期】 11～13回目	楽曲内のシチュエーションによって使い分ける音色・その理由を明確化する。
【前期】 14～17回目	【テスト内容】定められた時間内での全ての機材のセッティングを実演・トラブル対処への内容理解度をチェックする。
【後期】 18～20回目	ギターシェイプによる音色の違いに着目し、聴き分ける技能を習得する。
【後期】 21～24回目	レコーディング等で理想の音色を得る為、楽曲毎に使用するギターシェイプをセレクトする感覚を養う。
【後期】 25～27回目	レコーディング等で理想の音色を得る為、楽曲毎に使用するアンプをセレクトする感覚を養う。
【後期】 28～30回目	自身の理想の弾き心地を追求しつつ、トラブルの原因となる事の多いケーブル・電源周りへの知識を深める。
【後期】 31～34回目	【テスト内容】聴音による楽器の聴き分けと知識の理解度を確かめる。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽器関連知識/聴音力」の項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	サウンドメイクはTPOに合わせたお化粧の様な物です。 演じる楽曲の魅力を最大限に再現し、リスナーへ届ける事の出来るミュージシャンを目指していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニングⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。					
授業概要						
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。						
到達目標						
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	バンド「図鑑」にてドリーミュージックより4枚のアルバムを全国リリース。 メディア出演や海外フェス、国内のライブ、フェスなど多数参加。 現在はギタリストとしてアーティストのコンサート、レコーディング、オーケストラ参加など、幅広いジャンルにて活動。				
授業概要					
8ビートや16ビート、ロックやシャッフル等、様々なビートに対応できるようリズムの基礎から学んでいきます。アクセントやクレッシェンド、ダイナミクス記号など、楽曲のアーティキュレーションについても触れていきます。					
到達目標					
・音楽において重要な要素である『リズム』の基礎を習得する。					
・小節や拍の概念を理解する。					
・楽譜上の記号表記を理解し、沿った演奏ができる。					
・楽譜上のリズムを理解し、表記に沿った演奏ができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Unit1～4】8ビート、カウント、繰り返し記号、リハーサルマーク、ダイナミクス記号、ショート・エンディング、シンコペーション、ロング・エンディング
【前期】 4～7回目	【Unit5～8】ピックアップノート、キュー、勢いづけの16分音符、マイナーブルース、マスターリズム譜
【前期】 8～10回目	【Unit9～12】セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、ダ・カーポ、ハーフタイムフィール
【前期】 11～13回目	【Unit13～14】スウィング、シャッフル、ロック・シャッフル
【前期】 14～17回目	【Unit15】スウィング・ビート、ウォーキングベース ■前期試験：課題曲の演奏により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Unit16～19】ジャズシャッフル、12/8拍子、ダイナミクス、16ビート
【後期】 21～24回目	【Unit20～23】スロー16ビート、R&B、サンバ、ファンク
【後期】 25～27回目	【Unit24～26】Funky R&B、シャッフル16ビート、レゲエ、後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Unit27～29】スカ、ボサノヴァ、セカンドライン、後期テスト
【後期】 31～34回目	【Unit30】年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「記号理解 / リズム読譜 / リズム / アクセント」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	リズムは音楽においてとても重要な要素です。当授業ではリズムの基礎から学んでいきます。リズム感の向上はもちろん、拍や拍子を理解することで他パートとのコミュニケーションがとりやすくなり、アレンジ等をスムーズに進めることにも役立ちます。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムギターバックギンク/カッティングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。				
授業概要					
基本的なコードの形から複雑なテンションコード、様々なスタイルのストローク、理論も交えながらコードの基本を学ぶ。					
到達目標					
・リズム良くコード進行が弾けるようになる。 ・コード理論を理解する。 ・楽曲においてコード演奏が出来るようになる。 ・楽曲のアレンジ等にコードを利用する。 ・コードの成り立ちを理解することにより、キーの理解、作曲等に応用する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	オープンコードの理解
【前期】 4～7回目	パワーコード、バレーコードの実奏
【前期】 8～10回目	コード理論、様々なコード進行の理解
【前期】 11～13回目	ブルース進行の運用
【前期】 14～17回目	・トライアドの理解 ・四和音の理解 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	フレットの理解
【後期】 21～24回目	テンションコードの学習1
【後期】 25～27回目	テンションコードの学習2
【後期】 28～30回目	4弦ベースコードの学習1
【後期】 31～34回目	4弦ベースコードの学習2 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードフォーム/コード進行の演奏」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードフォーム/コード進行の演奏」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コードをしっかりと弾けることはとても大切なことです。ギタリストはソロに注目しがちですが、演奏のほとんどはコードを弾くことです。理論や複雑なコードを学んでいくにつれ、多彩なバックギンクが弾けるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	シングルスtrings & スケール I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	・奥本亮、清水麻八子等、アーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・流星群少女、茜つばき、初めてガールズ！、トキヲイキル等、アーティストのレコーディング時のバックアップミュージシャン その他、ギターに関する教則本やDVDを数多く手掛ける。				
授業概要					
スケールを理論面、そして演奏技術面から学び、様々な音楽スタイルでのリード演奏、メロディー作り、インプロヴィゼーションの方法論を学ぶ。					
到達目標					
・スケールを理論的に把握し、コードおよびコード進行との関係を理解する ・リードプレイに関わる演奏技術を習得し、あらゆる音楽スタイルでの演奏を可能にする。 ・ダイアトニックを中心に構成された音楽上でスケールや演奏法を自身で選択し、ミュージカルに演奏できる。 ・ある演奏内容に対して、最善の演奏法を自身で分析出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	メジャーペンタ&メジャースケール [#1、#3] マイナーペンタ&ナチュラルマイナースケール[#2 & #4] の修得
【前期】 4～7回目	スケールの学習方法とトレーニングアイデア、メジャー & マイナー・トライアドの基礎ポジション修得
【前期】 8～10回目	スケールとアルペジオを融合させる考え方と奏法の学習、コード進行を考慮したインプロヴィゼーション
【前期】 11～13回目	メジャー系 #2、#4、#5とマイナー系 #1、#3、#5の5ポジションを修得
【前期】 14～17回目	ブルース・ナリティの基礎学習、前期まとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルーススケールとその発展系スケールの学習、ドリアンスケールに関する学習
【後期】 21～24回目	ミクソリディアンスケールに関する学習、 ドリアン・ミクソリディアン・ペンタトニック系を融合させた演奏法の学習
【後期】 25～27回目	フリジアンスケールに関する学習、 ロクリアンスケールに関する学習
【後期】 28～30回目	各スケール理解度のチェック、使用法の熟成、スケールにまつわるオプショナルな知識
【後期】 31～34回目	総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールポジション把握 / リズムキープ / 正確なピッチ / 確実な発音」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私たちが夢中になっている音楽、その中でもとりわけメロディーなどを生み出すもとなっているスケール理論を学ぶということは非常に重要かつ有意義です。「なぜこのメロディーに感動するのか?」「なぜこれを聞くと悲しい気持ちになるのか?」「このメロディーはどのようにして生まれたのか?」これらの疑問を解決し理解する手掛かりになるでしょう。またギターテクニックの飛躍的な向上はもちろん、効率的で生産的な練習法も学べます。
備考	使用教科書「Single Strings 1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	テレビCM「ビブレ」音源制作 ・LA☆CAPE「暗黙の了解」/作曲 また演奏においてはマイク・スターン、マーカス・ミラー、ポール・ジャクソンなど、世界で活躍するアーティストとも共演。					
授業概要						
「リズムの歴史と体系」で学んだ様々なリズムパターンを実際にアンサンブル形式で練習していきます。よりリズムに特化し、セクションごとの確認やメトロノームの使用で細かくチェックしていきます。						
到達目標						
・音楽において重要な要素である『リズム』の基礎を習得する。						
・ベースやドラムの音をよく聞けるようになる。						
・リズム感の向上。						
・ベースやドラムの音を聞き合わせることができる。						
・バンド全体で一つのグルーヴで演奏できる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Unit1～4】8ビート、カウント、繰り返し記号、リハーサルマーク、ダイナミクス記号、ショート・エンディング、シンコペーション、ロング・エンディング
【前期】 4～7回目	【Unit5～8】ピックアップノート、キュー、勢いづけの16分音符、マイナーブルース、マスターリズム譜、
【前期】 8～10回目	【Unit9～12】セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、ダ・カーポ、ハーフタイムフィール
【前期】 11～13回目	【Unit13～14】スウィング、シャッフル、ロック・シャッフル
【前期】 14～17回目	【Unit15】スウィング・ビート、ウォーキングベース ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Unit16～19】ジャズシャッフル、12/8拍子、ダイナミクス、16ビート
【後期】 21～24回目	【Unit20～23】スロー16ビート、R&B、サンバ、ファンク
【後期】 25～27回目	【Unit24～26】Funky R&B、シャッフル16ビート、レゲエ、後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Unit27～29】スカ、ボサノヴァ、セカンドライン、後期テスト
【後期】 31～34回目	【Unit30】年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / アクセント / ダイナミクス / コミュニケーション / チューニング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	同じビートであっても、打ち込みやメトロノームの場合とバンドで演奏する場合では全くノリが変わってくるものです。当授業では、学んだリズムを実際にアンサンブル演奏していきます。他パートと合わせて初めて完成するグルーヴを感じて習得していきましょう。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。				
授業概要					
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。					
到達目標					
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。 ・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。 ・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。 ・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。 ・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 4～7回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかり意識したリズムワークを身に着ける
【前期】 8～10回目	ステージでライブをしていることをしっかり認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 11～13回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 14～17回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験：課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 21～24回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 25～27回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き活きとした演奏を目指す。
【後期】 28～30回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 31～34回目	年間総合復習 ■後期試験：課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	自身のバンド「パノラマメロウ」で精力的な活動後、近年はメジャーアーティストのレコーディング参加やアイドルグループ楽曲へギターで参加している。これまでゴダイゴ 浅野孝己氏、直訳ロッカー 王様氏、ALLI氏などとも共演。					
授業概要						
課題曲を用いて、バンドアンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスを実現するためのメソッドを学ぶ。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施						
到達目標						
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。 ・シチュエーションに応じた適切な演奏とふるまいを身につける。 ・本番ステージに向けた意味のあるバンドリハーサル方法を理解する。 ・自身の演奏のみに集中することなく、全体の演奏状態をリアルタイムで把握しながら最善のアンサンブルを作ることができる。 ・観客やステージを意識した演奏状態を作り、本番ステージに直結したアンサンブルを行うことができる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	バンドアンサンブルでの演奏に慣れ、自身の担当楽器の役割を理解する
【前期】 4～7回目	リズムやタイムを音楽的にコントロールし、休符をしっかり意識したリズムワークを身に着ける
【前期】 8～10回目	ステージでライブをしていることをしっかり認識し観客をイメージした演奏を心がける。周りのパートをよく確認し、統一感のあるアンサンブルを目指す。
【前期】 11～13回目	ワイルドさ、ファジーさを伴いながらも整った演奏を目指す。音価を意識した演奏を学ぶ。
【前期】 14～17回目	ここまでの課題曲で学んだことを全て取り入れ、理想的な演奏を目指す。 ■前期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音作りをアンサンブルの重要な一要素として捉え、適切な機材セッティングを分析する。
【後期】 21～24回目	自身の担当楽器以外のサウンドの質を理解し、総合的なアンサンブルをイメージし演奏力の向上をはかる。
【後期】 25～27回目	タイムやダイナミクスを意識し、有機的で生き活きた演奏を目指す。
【後期】 28～30回目	演奏クオリティを保ちながらステージングなどのパフォーマンスも意識し、聴衆に何を届けたいかを考えたライブアンサンブルを目指す。
【後期】 31～34回目	年間総合復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「サウンドメイク / 表現力 / アンサンブル力 / 演奏時の視野確保」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルとは、単純に各楽器が集まって好きに音を出し合った結果ではなく、もっと綿密で計画的に混ざり合っており、そこにダイナミクスやストーリーが存在します。自身のアンサンブルのイメージをより高め、それらをステージ上で観客に思い通りに届けるための実践方法を磨きましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタイルⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自身のバンドにてギター、ボーカル、作編曲等担当し福岡最大級のSunset Liveを始め、様々なフェスに出場経験がある。 約2400組参加のオーディションにて入賞経験もあり。 現在は自身のバンド含め、様々なアーティストに編曲やギターアレンジ等で参加している。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。					
到達目標					
様々なジャンルのギタープレイ、特にリズムの特徴などにフォーカスし学習する。代表的なアーティスト、楽曲を知り、題材のバックギングパターンやリフ、フレーズを実際に演奏し自身のスキルアップに繋げる。 ・代表的なアーティスト、楽曲を知ることにより各音楽ジャンルの特徴を理解する。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等)【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 4～7回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chili Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 8～10回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 11～13回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 21～24回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 25～27回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	当授業は、様々なジャンルの音楽に触れ実際に演奏することで、自身の演奏・音楽的知識、可能性の幅をどんどん広げていきます。スキルアップはもちろん、今まで知らなかったジャンルを身につけることで自身の活動での演奏、作曲、アレンジにも役立つでしょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	メタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。 2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。				
授業概要					
Logic Pro X等のDAWソフトを用いり基本操作及び楽曲制作の基礎知識を習得します。 PC(Mac)の操作を理解・習得します。 音源制作を行う手順を一から理解できるようにします。 プロジェクトや作曲を行っていく上で、どの様なアプローチで楽曲制作していくかを習得します。					
到達目標					
・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。					
・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。					
・生徒自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化することができる。					
・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。					
・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノード打ち込みから、ギターやヴォーカルなどのオーディオRECに関するDAW全般の操作を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 4～7回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる
【前期】 8～10回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(ルート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 11～13回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、スラムとアルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なポインティング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 14～17回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/バウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/プラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 21～24回目	プラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 25～27回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 28～30回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。 アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきます。
備考	参考書「Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コンピューターレコーディング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて長年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器屋音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
楽器奏者が必要なレコーディングの技術と知識を身につけます。					
到達目標					
・マイキングやインターフェースの調整など、レコーディングに必要な機材の基礎知識を身に付ける					
・レコーディング時のPCでのDAWオペレーションを理解し実践出来る様になる。					
・レコーディングした音源をエディット、ミックスで調整出来る様になる。					
・楽曲に対して録音が出来る様になる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディングの基礎知識、機材や備品の使用方法について
【前期】 4～7回目	インターフェースやDAWの接続、録音について
【前期】 8～10回目	楽器の接続やマイキング、レコーディング
【前期】 11～13回目	レコーディングした音の確認、トラックやミキサーについて
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験: 楽器のレコーディング技術と知識の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	レコーディングした音のエディット方法、ミックス術
【後期】 21～24回目	楽曲に合わせてレコーディング
【後期】 25～27回目	ミックスダウンの進め方、手法について
【後期】 28～30回目	マスタリングの進め方について
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験: DAW上でのオペレーション技術と知識の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	昨今は楽器奏者が自身で自宅やスタジオでレコーディングする事が多くなっています。 レコーディング技術を身に付けて楽曲制作や将来レコーディングの依頼が来た時に役立てましょう。
備考	